

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	齊藤真也
所属機関名	獣医学部・獣医学科
職位	教授
在籍年	7 年

教育の責任

学科の専門教育において、創薬に関連する分野の教育を担当している。すなわち獣医学科・獣医保健看護学科の一年生を対象とした『生物物理学』では動物の生理を科学的に理解するための生化学・化学の基礎としての物理化学を、また診察の意味を理解するための物理学を講義し、これから学ぶ専門科目に対して科学的に取り組む基礎づくりを担っている。またアドバンスト科目においては『トランスレーショナル・リサーチ』で薬効と毒性を統合的に俯瞰することで薬の使用についての立体的な理解を、『国際ライフサイエンス産業政策論』においては現代の薬のモダリティについて開発する側の視点と開発を促す側の視点を組み合わせ、視点を変えることでこれまでの学びについての理解の深まりを目指している。

また獣医師教育における基盤部分の教育を担当している。生命倫理学においては概論で表面的学んできた獣医師の様々な職域において、異なる立場で動物との向き合い方が影響されることを学び、動物に対する多面的な考え方とそれらを調和させるべき獣医師としての視点を涵養することを目指している。

教育の理念

学ぶことはすべて自分の人生に役立てることができる。そのために必要なことは新しい情報を理解すること。どのような内容でも構わないので、何事も理解する回数を積み上げてほしいと考えている。これが結果的に自分の思考の幅を広げることにつながるという信念で、一つのことを様々な視点から観る（そして感じる）機会を提供することを心掛けている。これらの場を通じて、状況を分析し、自ら判断して行動指針が出せる自立した獣医師を養成することが理想である。

教育の方法・方針

『生物物理学』では最後にまとめとして、一コマを用いて総復習を行っている。また獣医保健看護学科の学生には各講義回の最後にも小テストと称してキーワードについての簡単なまとめ文を提出させている。これらの作業を通じて、苦手であってもキーワードだけは頭に残すこと、そして次に自習する際にはキーワードから学習を出発できるようにするための場を提供するためである。物理学未履修の学生でも講義について来られるように講義スライドとは別に簡単な参考資料を配布している。

どの科目でも必ず、ポイントごとに実際の獣医師／看護師が遭遇する場面や日常生活にどのようにかわるかを引き合いに出し、学生が学ぶ内容を自分事として捉えられるように工夫している。

『生物物理学』は国家試験の科目ではないため、受講する学生のモチベーションが低く、知識の獲得→理解というプロセスは自発的には進みにくい。そのため学生が、講義中に聞こえてくる内容に注意を向ける工夫が必要と考えている。意識が向けば新しい情報を受け取る際に自分の記憶を参照し、理解することができるようになる。したがって学生がどれだけ講義内容を自分事として聞き取るかが大事であると考えている。

教育の成果

講義の振り返りとして「小テスト」を採用したのは、前職の静岡県立大学において『臨床薬理学』の食品栄養科学部の学生を対象に講義をした際に、その有無によって定期試験の結果が改善して以来採用している。とくに『生物物理学』は生物系の学生にとって特に難解な科目である。その中で約 41%の学生から授業目標を「達成できた」、約 35%の学生から「ほぼ達成できた」という評価を得ている。

今後の目標

理大で学ぶ前と後を比べて、自分の視野が広がったと学生が実感できるような教育をしていきたい。そのために問題点に注目させるような展開、多角的な視点の提供、腑に落ちるような説明を巧みに組み込んだ講義をしていく。

根拠資料

シラバス、教材（パワーポイント資料、実習書）、自己学習用の確認問題、中間試験問題、期末試験問題、授業アンケート結果